

経営比較分析表（令和元年度決算）

佐賀県多久市 多久市立病院

法適用区分	業種名・事業名	病院区分	類似区分	管理者の情報
当然財務	病院事業	一般病院	100床以上～200床未満	非設置
経営形態	診療科数	DPC対象病院	特殊診療機能 1	指定病院の状況 2
直営	16	-	ド透訓	救 臨 災 輸
人口（人）	建物面積（㎡）	不採算地区病院	看護配置	
19,030	6,363	第2種該当	10:1	

1 ド...人間ドック 透...人工透析 I...ICU・CCU 未...NICU・未熟児室 訓...運動機能訓練室 ガ...ガン（放射線）診療

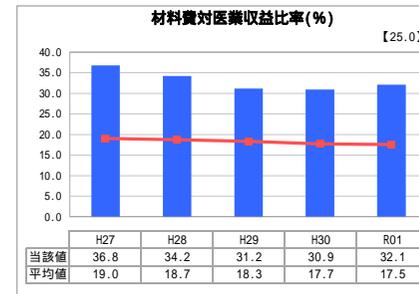
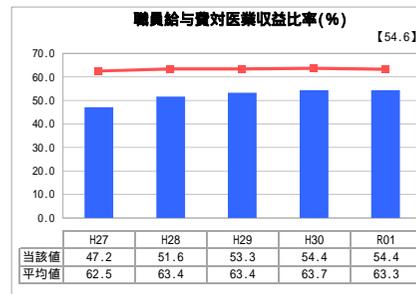
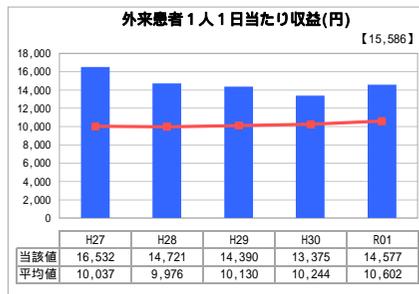
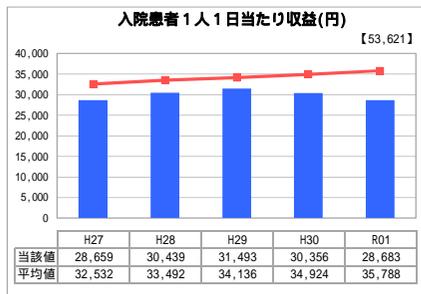
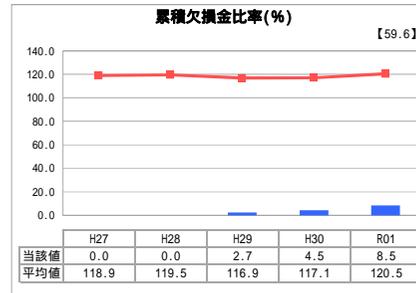
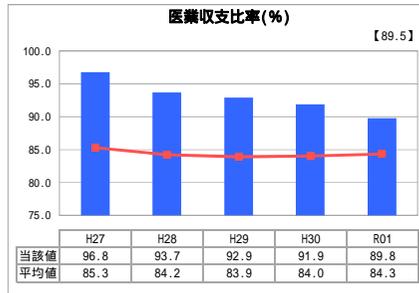
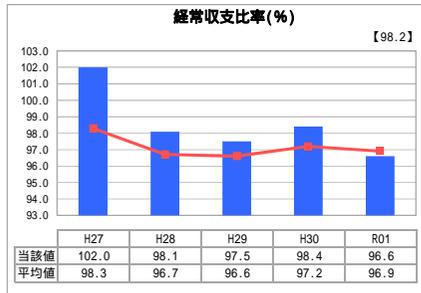
2 救...救急告示病院 臨...臨床研修病院 が...がん診療連携拠点病院 感...感染症指定医療機関 へ...へき地医療拠点病院 災...災害拠点病院 地...地域医療支援病院 特...特定機能病院 輸...病院群輪番制病院

許可病床（一般）	許可病床（療養）	許可病床（結核）
60	45	-
許可病床（精神）	許可病床（感染症）	許可病床（合計）
-	-	105
稼働病床（一般）	稼働病床（療養）	稼働病床（一般+療養）
53	33	86

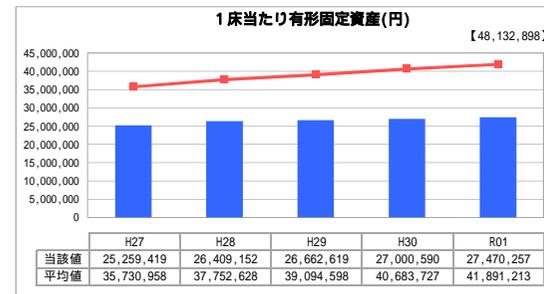
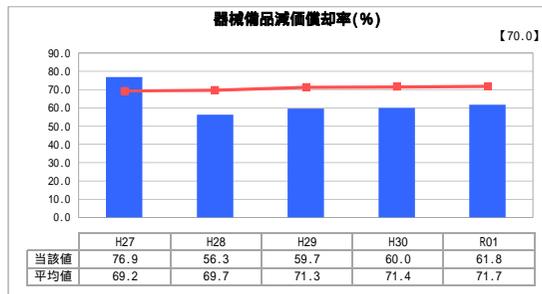
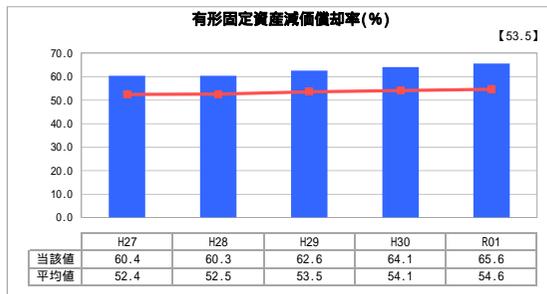
グラフ凡例

■ 当該病院値（当該値）
 - 類似病院平均値（平均値）
 【】 令和元年度全国平均

1. 経営の健全性・効率性



2. 老朽化の状況



公立病院改革に係る主な取組（直近の実施時期）

再編・ネットワーク化	地方独立行政法人化	指定管理者制度導入
-	-	-
年度	年度	年度

地域において担っている役割

当院は佐賀県の中核医療圏に位置し、地域の中核医療施設として、主に内科・外科・整形外科等の診療科目を掲げ地域に密着した病院事業を展開している。病床数は一般病床60床、療養病床45床の計105床であり、一般病床のうち6床は地域包括ケア病床としている。また、救急告示病院及び災害拠点病院等の指定を受け県中央部の中核的病院としての役割を担っている。

分析欄

1. 経営の健全性・効率性について

本年度は昨年に引き続き医師が1名減少をし、患者数は入院496名（2%減）・外来1059名（2.6%減）とも減少しているが、特に入院の一般病床の患者数が前年比で1500名程度減少していることが病床利用率及び入院患者1人1日当たりの収益の低下に影響をしている。また、給与費対医療収益比率については医師が1名減少等で昨年12,805千円減少したが、医療収益も23,676千円減少をしたため割合は昨年と同様の54.4%となった。なお、材料費対医療収益比率については院内処方をしており、その影響で薬剤費が材料費の78%（335,086千円）の割合が平均値よりも割合が高くなっている。

2. 老朽化の状況について

当院の建物は病棟が昭和52年、診療棟が平成5年に完成をし、病棟が病棟は築40年以上経過していることから有形固定資産減価償却率が65.6%と老朽化が進んでいる。機械備品減価償却率は、昨年度に引き続き高度医療機器の整備を行い61.8%となった。今後も引き続き維持管理及び医療機器の購入については、新病院の計画もあるので隣接市と協議が必要と考える。

全体総括

人口の減少や医師減少などで厳しい経営状況が続いている。当院は築40年を経過し、建て替えの検討時期にきている。将来的に患者数のピークアウトが予想される中、ともに建て替え時期を迎える隣接市の公立病院と今後の公立病院の在り方について協議を進めてきたが、令和元年9月に両病院を統合し、新病院を設置することに合意した。今後、病院規模や診療機能等の基本構想・基本計画を作成し、事業を推進することとしており、両病院の医療資源を集約し、住民から求められる病院として引き続き安定的な医療供給体制を構築していく。

※「類似病院平均値（平均値）」については、病院区分及び類似区分に基づき算出している。